

インドネシア—セラン県とギアーニア県での事業が10年目を迎えました

PHJがバントゥン州セラン県で実施している「地域保健医療システム強化事業」とバリ州ギアーニア県で実施している「医療機器の技術指導」は共に10年目を迎えました。セラン県の事業は伊藤所長から、ギアーニア県の事業は9回目の技術指導を担当して頂いた聖マリアンナ医科大学病院の小川技師からご報告します。

「地域保健医療システム強化事業」 バントゥン州セラン県ティルトヤサ自治区

この事業は、国連ミレニアム開発目標8のうち④乳幼児死亡率の引き下げ、⑤妊産婦の健康状態の改善、に沿った活動で、目標達成には妊娠中と分娩時のリスクをいかに下げるかが大事です。活動地域は人口5万人、14の村で構成されています。活動開始当初の状況は、専門知識がなく経験と伝承によって分娩介助を行う伝統的産婆による出産が多く、伝統的産婆は医療器具も使わず見よう見まねで、赤ちゃんのヘソの緒処置に「手作り竹ナイフ」を使用するケースもありました。

まず最初に識字能力の低い人もいる伝統的産婆たちに、ごく基礎的な専門教育を行うと共に医療器具を配布することから始め、更により安全な出産確保のために、助産師とのパートナーシップ出産(共同出産立会い)を奨励しました。その結果、「安全なお産を確保したい」との地域の関心も高まってきたので、2006年ごろから次のステップとして「自宅出産から、医療施設での出産を推奨する」活動へと進め、活動開始時に村にほとんどなかった保健サービス拠点としての「地域保健センター(ポスケステス)」の建設支援を開始し、これまでに7軒が完成しました。このように社会の末端での医療・保健サービス



妊婦への保健医療教育

の向上を目指してきました。

ありがちなプレゼント作戦ではなく、時間は掛かりますが忍耐強く教育・啓蒙活動を通じた妊婦自らの「行動の変化」による成果を求めてきました。下のグラフにあるように一定の成果がでて

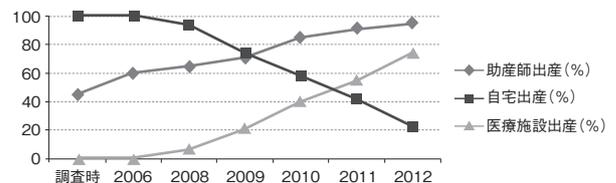


保健センターでの定期検診

減少したとはいえ、現在も伝統的産婆による出産や妊婦・新生児の死亡ケースはまだあります。「人の行動の変化」を得ることは容易ではありませんが、真の成果・将来の持続性を考えた場合には必要不可欠なことです。10年後・20年後に「PHJの活動支援があってよかった」と活動地域の人たちに思ってもらえるようにこれからも取り組んでいきたいと思えます。

今後は、この地域での最終段階となる「事業の現地移行」を徐々に行っていきます。

インドネシア事務所所長 伊藤 美夏



ギアーニア病院におけるX線CT検査技術指導

以前よりギアーニア病院へCT検査および超音波検査の技術指導のため、聖マリアンナ医科大学病院から診療放射線技師が派遣されていますが、CT装置の更新と現地スタッフの異動に伴い、CT検査の技術・知識向上を目的に、私と当院診療放射線技師の吉川達生の2名で訪問させていただきました。

病院を訪れると、外の廊下まで溢れた患者さんの多さに驚きましたが、CT検査室は落ち着いた雰囲気、その点では研修向きな環境でした。初日、実際にどのような方法で検査が行われているかを分析し、5日間という限られた期間中に、効率的に成果を挙げる教育プログラムを考えました。病院の電源事情が悪く、停電により検査ができない状況が頻発する中、慣れない(解らない)インドネシア語と英語を交えての説明は、思った以上に大変でした。しかし、最終日には、現地スタッフと一緒に考えて装置スペックと依頼内容に合わせた最適な検査プロトコルの設定と検査方法を、理論的に構築することができました。本研修の目標はここにあり、今後も装置や検査環境が変わっても

役立つ内容になったと思います。このような成果を得ることができたのは、伊藤所長とチャンドラ先生のご支援のおかげです。

最後に、このような大変貴重な経験をさせていただきましたPHJ関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。そして、私たちが温かく迎えてくれた病院スタッフの皆様、多忙中の中でも快く送り出していただいた当学放射線医学教室の中島教授、当院本館CT室スタッフに深く感謝し、インドネシアの平和と医療の更なる発展に願いを込めて本報告を終わります。

聖マリアンナ医科大学病院 画像センター
診療放射線技師 小川 泰良



研修に参加した病院スタッフと講師たち



指導の様子

タイ— PHJ の活動を支える国際インターン・ボランティア達

タイ事務所ではタイ北部チェンマイ県を中心に、障がい児のリハビリ支援、先天性小児心臓病手術支援、大学生や中高生を対象にした HIV/AIDS 予防教育、女性を対象にした子宮頸がん・乳がん検診推進の4つのプロジェクトを実施しています。

PHJのスタッフは専門の知識や経験を積んでいますが、わずかな人数でこれらのプロジェクトを継続して行うためには地域の保健センターのスタッフや保健ボランティアの協力が欠かせません。

さらにアメリカ、カナダ、オーストラリアからきた保健医療を専攻している優秀な学生たちもボランティアやインターンとしてプロジェクトを支えています。

(国際的なボランティア派遣団体である ProWorld からの紹介や、過去に受け入れた学生などからの口コミで、



ケイト(左から3人目)に感謝する
タイ事務所のスタッフ 4月9日

PHJタイ事務所には海外から数多くの学生がボランティアを志願してきます。)

4月に帰国したオーストラリア人ボランティアのケイトは公衆衛生学修士と看護師の資格を活かし、タイ

事務所で1年間 HIV/AIDS 予防教育を担当しました。特に HIV/AIDS プロジェクト評価報告書作成では調査方法の提案からアンケート作成、評価の目標・方針の提案、調査項目の翻訳、データを報告書にまとめる作業まですべての作業に関わりました。さらに次期プロジェクトの企画ではチェンマイにおける HIV/AIDS に関するデータ収集や企画書・計画書作成にも携わりました。彼女の素晴らしさはチームワークを大切にすることです。だからこそ数多くの仕事を任せることができました。

ケイトは最後に「公衆衛生の分野で人々の健康改善に向けて働いているスタッフと仕事をともにしたおかげで、HIV 予防について多くのことを学びました。このような機会を与えて下さり感謝しています。」と言ってくれました。

ケイトの他に過去3年の間にタイ事務所で3か月以上在籍した国際インターン・ボランティアは9名(女性7名、男性2名、内公衆衛生学修士3名、医学部院生2名・身体運動学博士課程、心理学士各1名、看護学学生2名)に及びます。

PHJタイ事務所での経験がそれぞれのボランティアの人生やキャリアで有益かつ意義のあるものとなることを願っています。

タイ事務所所長 ジラナン・モンコンデー

カンボジア—母子保健ボランティアの育成

母子保健をとりまく課題はしばしば「3つの遅れモデル(Three-Delays Model)」を使って分析されます。3つの遅れとは、①産科ケア受診決定の遅れ(受診の重要性への認識自体の欠如、家庭で意思決定ができない女性の低い立場)②産科ケア施設への到着の遅れ(施設への距離や交通手段確保の難しさ)③適切なケア提供の遅れ(設備・医薬品・人材・技術の不足)です。

このモデルは、私たちに保健施設や医療従事者の充実だけが母子保健を改善する十分条件ではないことを示しています。③のみならず、①や②の保健行動に間接的に影響する諸問題(文化、個人思想、物理的条件といった要因が絡み)は非常にコントロールが難しいのです。そこで活躍するのが、村の女性から成る母子保健ボランティア(CCMN)*です。村の母親たちを励まし、助言を与え、保健センターへ送る手助けをすることが期待されています。2012年末にPHJは全84名のCCMNの新規育成研修を終了しました。7日間に渡り産前・産後ケアの基礎知識と技術を州保健局の専門スタッフから学び、各村に配置されました。

しかし、CCMNの育成はこれからが本番といっても過言ではありません。

産前・産後女性への家庭訪問と相談などの活動を開始



母子保健ボランティアの家庭訪問

したCCMNは村での母子保健知識の定着を目指し、村の女性達との信頼と協力を得ながら、お互いに知識を学びあうシステムを築いていくのです。

PHJスタッフが村人に働きかけることもあります。女性同士が育てあうことが何より重要だと考えています。CCMNの育成を促すために、PHJは四半期に一度活動フォローアップを行っています。各CCMNの家庭訪問に随伴し、村の女性同士の学びあいを促進するサポートをしています。何十名ものCCMN一人一人の活動を丹念に追うわけですから、とても時間と根気のいる大変な活動ですが、私はこの活動に特に大きな意味を見出しています。いわば社会的に力を持った、「男性」でもなく、「専門技術を持った医療従事者」や、「私たちNGO職員」に依るものでもなく、経済的・地位的にも高い立場にいるわけではない極く普通の村の女性が同じ立場の女性を支え、育てあう「仕組み」をつくるという意味で、CCMN活動は「3つの遅れ」①と②の諸問題に立ち向かうだけでなく女性のエンパワーメントを“押し進める”大きな意義があると私は信じています。育成は、これからも続きます。

*CCMN: community care worker for mother and new born
カンボジア事務所所長 林 朝子



家庭訪問を受ける母子

東日本大震災支援 ― 宮城県 多賀城腎・泌尿器クリニックの復興支援

多賀城腎・泌尿器クリニックは2011年3月に発生した大津波で一階にあった高度な医療機器や透析装置の殆どが使用不能となりました。しかし院長先生を始め職員の必死の努力で2012年10月1日に同じ場所に新病院が完成し、最新式の透析装置60台と入院設備も完備しました。同院は多賀城を始め、仙台宮城野区、塩釜、七ヶ浜、利府から毎日200名近くの外来患者が訪れており、中枢医療機関として活躍しています。

今年1月、篤志家の方よりPHJを通して身体組成分析装置、膀胱結石破碎装置システム、内視鏡洗浄消毒装置を寄贈頂きました。現場で必要とされながら価格が高く購入できなかった機器が今回の寄贈で導入されたので、医療の効率化が計られ、医師、看護師と患者様から大変喜ばれています。さらに今後の維持管理や更新費用等についても、同じ篤志家の方が取り組まれた

三井住友信託銀行様の特定寄付信託の資金でPHJを通じて賄われる予定であり、クリニックでは今後も良質な治療がなされる見込みです。

医師、看護師、患者様からの喜びの声を紹介します。

- ・透析患者のドライウエイト（適正体重）は採血等で決めていたので結果が出るまで2～3日かかっていたが、身体組成分析装置は数秒で結果が出るのでとても便利になった。
- ・膀胱結石手術は震災後は出来なくなり他院を紹介していたが膀胱結石破碎装置システムの導入で手術が可能になった。
- ・内視鏡センサーは人の手で洗浄していたが、スピーディーかつ細かに洗浄・消毒できる内視鏡洗浄消毒装置のおかげで、高価なセンサーを痛める、あるいは感染症が発生するといった心配はなくなり、患者も安心して検査が受けられる。また検査は予約制であったがこの装置のおかげで予約不要になった。

東京事務所 横尾 勝



完成した多賀城腎・泌尿器クリニックと透析装置



震災直後の透析装置

五月女理事



Vol.10 United NationsとEconomic Animal / 意識と誤訳



日本の国際NGOは海外においてUNICEFやUNHCRなどの国連諸機関と活動を共にすることが多々あります。日本にとり国連は最も馴染み深い機関です。戦後の1956年、日本がUnited Nations (UN) に加盟した時、このUNなる国際機関をどう訳すか、種々検討した結果、「国際連合」となりました。しかしUNには国際に該当する文字がありません。なぜそうなったのでしょうか。いろいろな思惑があったようです。ちなみに同じように漢字を使う中国では、直訳で「聯合國」と訳しています。中国は忠実に訳し、約10年後に加盟した日本は国内の反応を考慮して「国際連合」としたのでしょう。

以前、筆者が駐在していたパキスタンでの話ですが、日本の某新聞記者が当時のブット外相（後の大統領）と会見した際、同外相が日本は「エコノミック・アニマル」の国であると発言したそうで、同記者はこれを「金儲けに貪欲な野獣・日本」と暴言を吐いたと報道し、日本人は侮辱されたと思い込んだのです。アニマルとは野獣としか考えなかったのでしょうか。実は、ブット氏は英国オックスフォード大学を卒業し教鞭をとった

経験もある正当なイギリス英語を話す人物で、「アニマル」は、強い、偉大な、立派な、と云う意味で使っていたのです。つまり、同氏は日本に敬意を表して、「偉大なる経済大国・日本」と発言したのです。因みに、英国の偉大なる政治家であったチャーチル元首相は、「ポリティカル・アニマル」と云われました。また、1997年英国最後の香港総督を務め帰国したパッテン男爵は、保守党幹事長として活躍、後にオックスフォード大学総長に就任しましたが、彼も偉大なる人物として「ポリティカル・アニマル」と称されました。

直訳は無難ですが、誤訳は危険です。意識は時代背景があるので許される訳なのでしょう。日本語は便利であると同時に、誤解を招く危険もあります。海外で活躍する日本人が増えるのは結構なことですが、生半可な知識での交流は気をつける必要があるでしょう。



五月女光弘（さおとめみつひろ）
外務省初代NGO大使、元特命全権大使、元早稲田大・聖心女子大等兼任講師、文芸春秋ベストエッセイストの一人、著書多数、PHJ理事等。

祝叙勲：五月女理事は国際関係、国際協力、外交などの分野での長年の功績に対し、2013年春の叙勲で瑞宝中綬章を授与されました。PHJ一同心よりお祝い申し上げます。 理事長 小田 晋吾

会員のひろば

いとすぎ学級と「アジアのおはなしカレンダー」

PHJの「アジアのおはなしカレンダー」プロジェクトが始まって以来、日本のお絵描きに参加して下さっている「いとすぎ学級」。この学級の成り立ち、そして毎年子供たちや先生が、どのような思いでこのプロジェクトに取り組んでいただいているのかをお伝えします。

▶ いとすぎ学級とは？

「いとすぎ学級」は、武蔵野赤十字病院にある院内学級です。JR中央線武蔵境駅から歩いて10分、緑に囲まれた総合病院の一角にあります。1973年当時、病院長と地元の境南小学校の校長の話し合いから始まり、以来40年、様々な病気や怪我の子どもたちが入院・治療しながら、学び、進級や卒業をしていきました。高校入試に合格した子もいます。退院して「本校に戻ったときに困らない」学習を保障したいという切なる願いで運営している学級ですので、国内の小中学校の教科書を、市教委より揃えていただきました。理科の実験・学級園での作物栽培・調理実習・美術の作業・パソコン学習など、何でも取り組めるようになっていきます。このような環境の中で、PHJのカレンダー作りにも参加してきました。いとすぎ学級は来年、40周年を迎えようとしています。医療が進んだ今日でも、治療を必要とする子どもたちに寄り添い、院内の“オアシス”として、日々努力していきたいと思っています。

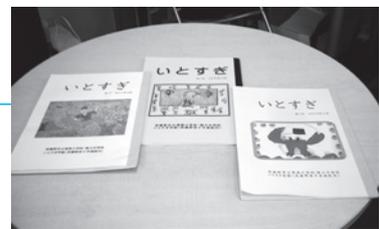
武蔵野市立第六中学校 いとすぎ学級 茂木 貴実子

▶ アジアのおはなしカレンダー・プロジェクトに参加して

子供が入級すると必ず、読み聞かせをしています。入級当初は、起き上がれないことも多いからです。そのときは、読み聞かせの受け手になっている子供ですが、このプロジェクトに参加することで、自分がお話から感じたことを発信することができました。機会をいただかなければ、こうした双方向のコミュニケーションはできませんでした。わいわい話し合いながら絵を描いたことも楽しかったです。

また、3年連続カレンダーの絵に選んでいただけたことも有難かったです。子供達全員が、自己肯定感が満たされているとは限りません。いとすぎ学級の少人数指導の中で、とてもいい絵をじっくりと描けることができ、自信をもって在籍学級に帰って行った子がいたことが印象的でした。選ばれなかった子供にも、お絵描き参加はいい経験になりました。

武蔵野市立境南小学校 いとすぎ学級 岡安 美絵子



いとすぎ学級の年報の表紙にはPHJのチャリティー・カレンダーに採用された生徒の絵が使われています

PHJ 初代理事長 杉山卓氏が逝去されました

PHJ 創立時から約4年、初代理事長としてPHJの活動を支えて下さった杉山卓氏が4月26日に逝去されました。

PHJ一同心からお悔やみ申し上げます。

理事長 小田 晋吾

追悼：杉山初代理事長に捧げる



杉山卓博士が4月26日に88才で急逝されました。ここに衷心から哀悼の意を表します。

今から16年前1997年にPHJがスタートした頃はNPO創成期で社会的にも未熟でした。そのため社会の信頼を得ることが最も重要で、理事は「産・官・学のバランスを取り、

運営原則として次のように指示されました。

- ① NPOはまず募金額で評価されるので募金を活発に。
- ② プログラムは被支援者のニーズを最優先に。
- ③ 収入源は寄付が中心なので経費ゼロが望ましい。

杉山さんは長年の経営トップ経験と豊富な人脈が財産

でした。募金活動は先頭に立って実践され、依頼書を持ってスタッフがお願いにあがりました。プログラムは現場のニーズ究明を主張されました。経費はムダを無くすことを徹底され、その後のPHJ低経費率の原点になっています。支援先は「アジア途上国が中心であるが日本に大きな災害が起きた時は日本支援も考える必要がある」と言われ、期せずして現在の東日本大震災の支援に繋がりました。

写真は、PHJ当初のパートナー米国NPO「Project HOPE」のWalsh理事長が来日された時のものです。

杉山さんは大変お元気な方で病気とは縁がなく特に足腰が丈夫でゴルフも歩いてプレーされていました。昨年初に米寿のお祝いをして100才までは確実と皆で話してましたのに急逝されたことは残念でなりません。

心からご冥福をお祈りします。有難うございました。

須見 彰

賛助会員様 感謝キャンペーン

「アジアのおはなしカレンダー2014」を賛助会員の皆様の一部プレゼント!



おとぎ話と子どもの絵が楽しめる、とご好評いただいているPHJの「アジアのおはなしカレンダー」。このたび賛助会員の皆様にご支援への感謝の気持ちを込めて「アジアのおはなしカレンダー2014」を1部ずつお贈りします。お届けする期間は2013年10月から11月となります。通常通りのお申込みも8月半ばからホームページ上で受け付けます。

2014年版カレンダーの絵



カンボジア
「トラを生き返らせた仙人の話」



インドネシア
「トバ湖の伝説」